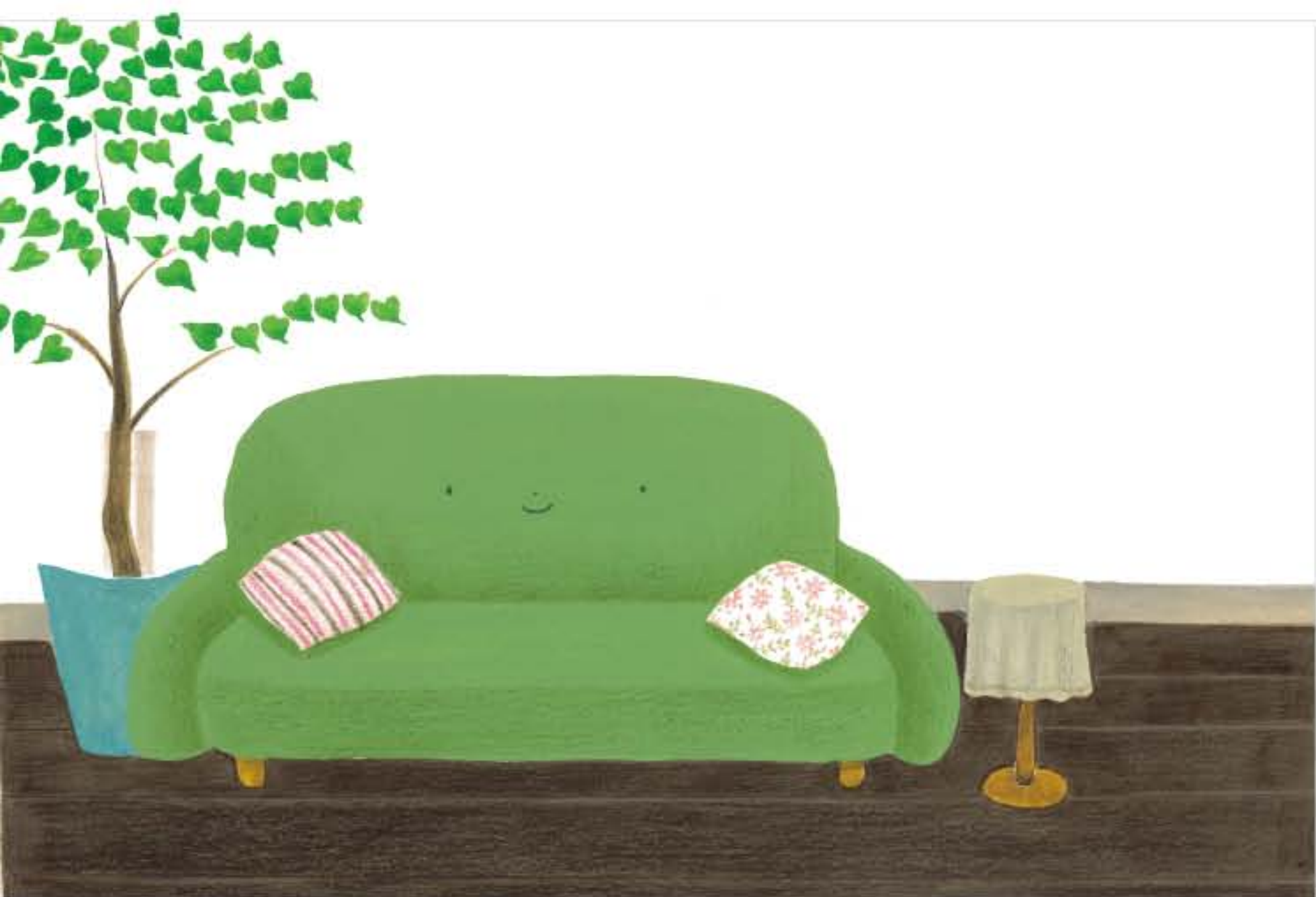




「これからも ずっと…」

さく・え はやし ゆか

おひさまの はちみついろのひかりがぽかぽかと まどべに ふりそそぐ。
ほくは ゆっくり めを さます。



こいぬのボボが　ねむそうにのびをする。

「おはよう、ボボ！」

ぼくは　やさしく　こえをかける。



キッチンから コーヒーのかおりがただよってくる。
ハルさんと アンナさんだ。



あさごはんのあと、
ふたりは いつもコーヒーをのみながら おしゃべりする。
ほくの だいすきな じかん。



あるひのごと。
「ソファにうまれて よかったな。」
ぼくは しあわせなきもちで つぶやいた。
そのとき、ちいさなこえが きこえた。
「ソファにうまれてよかっただって？
ふるくなったら すてられちゃうのにさ。」
えっ… ？！ ぼくは おどろいて ことりをみた。



そのよる ほくは ねむれなかった。
ことりのことばを なんども おもいだした。
ほくも すてられちゃうのかな…
ずっとハルさんと いっしょにいたのに…
アンナさんが およめにきたひも ポポが かぞくになったひも。
たのしい じかんが ずっと つづくと おもっていたのに…



しばらくたった あるひ。
おひるねしていたぼくは とつぜん グラグラと
だれかに もちあげられた。



知らないひとが ほくを どこかに つれていこうとしている。
ほく どうとう すてられちゃうの？
そんなの いやだ！！たすけて…



くらやみのなかで いつのまにか ねむっていたみたい。
ブルブルさむけがして めをさますと
きいたこともない おとがした。
コンコン ギギギ…
ぼくは こわくて こわくて きをうしなってしまった。



どれくらい　じかんがたったのだろう。
ききおぼえのある　こえがする。
「こちらですよ。おまちしていました。」



「まどの あたりに おねがいします。」
ハルさんのこえだ！
ぼくは そっと めをあけた。



そこは だいすきな ぼくのばしょだった。
また ここに かえってこれたんだ。
うれしくて うれしくて とびあがりたい きぶんだった。



ハルさんと アンナさんが
やさしく ぼくを みつめて いった。
「おかえりなさい。まっていたよ。」
「とっても すてきないろだこと。ソファくん、これからもよろしくね！」
アンナさん、あかちゃんがうまれたんだね！おめでとう！
それに… すてきないろって…
ぼくの こと？！



よくみると ふるくなっていた ぼくのからだは
はりかえられて きもちのよい カバーに つつまれていた。
なんて ここちいいんだろう…
ハルさん アンナさん ありがとう！



おひさまのひかりに つつまれるあさ。
ポポは きもちよさそうに ねむっている。
キッチンからは コーヒーのかおり。
ぼくのいちにちが また はじまろうとしている。
この しあわせな じかんが ずっとつづきますように…。
これからも ずっと…。



NOYES

SOFA100%

2013年3月29日発行

著者 はやし ゆか 発行者 株式会社 NOYES

第1回 NOYES 絵本コンクール 大賞作品